

喜多流

第三回 塩津能の會 九州公演

平成28年11月12日(土)午後1時30分開演

大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155
http://www.ohori-nougaku.jp

【鑑賞券】

正面(指定席)/7,000円
脇正面(指定席)/5,000円
中正面(指定席)/4,000円
正面(自由席)/6,000円
脇正面(自由席)/4,000円
中正面(自由席)/3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局
TEL/FAX:03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

http://kita-noh.com/ticket

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト
http://www.shiotsu-noh.com

詳しくはこちらへ→



主催:一般社団法人 塩津能の會
後援:九州国立博物館

【会場案内】



■西鉄バス 黒門バス停…下車徒歩3分 大濠公園バス停…下車徒歩3分
■地下鉄 大濠公園または唐人町…下車徒歩7分

能とは?

能とは舞(動き)と謡(歌・セリフ)による舞台演劇です。しかし、現代の演劇の大半がドキュメンタリー、つまり時間を圧縮した物語であるのに対し、能は逆ドキュメンタリー、衝撃的な一瞬の出来事を引き延ばしたものです。一瞬とは人の出会い、別れ、生死などをいい、これらの背景にあるさまざまな物語を、観る人それぞれが心の中に描きます。これによって能は百人が観れば百通りの見方ができる舞台芸術です。つまり隣の人の感想が違うことが常で、そこが難解と言われるところなのです。しかしこそが能の持つ魅力です。

九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって由縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受けたことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先達、梅津只圓が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只圓翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を燈すために、熊本ゆかりの能楽師塩津哲生・圭介が「塩津能の會」九州公演第三回目を催します。日本が世界に誇る伝統芸術、能楽の精華を、文化豊かに薫る福岡の地に、そして広く九州の地へとあらたに拡げることが目指して活動に取り組んでまいります。

文化継承!

和風建築が減少し、畳の部屋がないという住まいも多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはとても不安を感じます。昨今文化発展向上の声はありながら、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力の後世に伝えようと、明治維新も敗戦の困窮時もひたすらにその道を全うして来られました。喜多流の九州内での催しが激減した現状を何とか再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きる私達の使命だと思います。

塩津能の會 九州公演

おはなし

塩津 圭介

舞囃子 海人

塩津 哲生

大鼓 白坂 信行
小鼓 古田寛二郎

太鼓 田中 達
笛 森田 徳和

地謡 狩野 祐一
友枝 真也

佐々木多門
狩野 了一
粟谷 充雄

狂言 樋の酒

シテ 野村 万禄

アド 吉良 博靖
小アド 吉住 講

〔休憩二十分〕

シテ(老宮人) 塩津 圭介

能 春日龍神

ワキ(明恵上人) 御厨 誠吾

大鼓 白坂
小鼓 幸

保行 太鼓 田中 達
正佳 笛 森田 徳和

ワキツレ(從僧) 坂苗 融

問狂言(春日の宮人) 野村 万禄

後見 塩津 哲生
粟谷 充雄

地謡 渡辺 康喜
友枝 真也
狩野 祐一

佐々木多門
長島 茂
狩野 了一

(終了予定午後四時半頃)

九州国立博物館での講座

九州国立博物館左記会期中 塩津哲生・塩津圭介他による能講座が開催されます。

タイトル：京都高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―

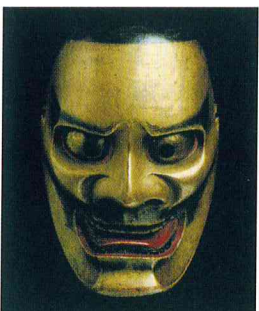
期：平成二十八年十月四日(火)〜十一月二十日(日)

講座日時：十月十五日 午後二時

場 所：九州国立博物館

(福岡県太宰府市石坂四一七二)

内容：塩津哲生・塩津圭介による「春日龍神」の能面・能装束 曲目解説



春日龍神の能面／黒髪



春日龍神の能面／前シテ 小尉

あらすじ

あま 海人

讃岐国志度寺の縁起、藤原氏にまつわる伝説を素材に、ドラマチックに作り上げられた作品。藤原房前の出生譚や、藤原氏の女性が唐の后になったという伝説、海底に奪われた宝物をとりかえす海人の伝承、房前が志度寺に寄進したことなどを題材としています。

わが命を犠牲にしてまで子の栄達を願う母の行動を主筋に、法華経による女人成仏などの宗教性も加味した人氣のある能のひとです。この曲のクライマックス部分「玉ノ段」は、写実性に富み独立した仕舞としてもよく上演されます。

房前が妙法蓮華経で母の追善供養をしていると、龍女に姿をかえた母があらわれます。本日は房前に対して報酬の温情溢れる舞を舞うところを演じます。

あらすじ

かすがりゅうじん 春日龍神

明恵上人は仏跡を訪ねるため、唐から天竺へ渡ることを志し、春日の明神へ暇乞いに南都を訪れます。宮守の翁と出会うと参詣の趣を告げると、春日の明神も信賴を寄せ、徳を慕うと上人が入唐渡天することは、神慮に背くことであり、釈迦入滅後に仏跡を訪ねても意味のないことであると諭されます。翁は「三笠山に仏跡を遷して、釈迦の誕生から入滅まで全て再現してお見せしましょう」と約束します。そして自分こそ、春日の神が鹿島からこの地に渡られた時、従った中臣時風・秀行であること明かして姿を消します。一面金色に輝く春日野。大地は振動し、春日の神の使いの龍神が眷属を引き連れて出現し、釈迦の説法に連なる様子を見せ、上人が思い止まったことを確かめると、波を蹴立てて猿沢の池に姿を消します。

今回、九州国立博物館で催されている高野山と明恵上人特別公開鳥獣戯画に併せて春日龍神を選曲しました。上演機会の少ない曲ですが、能らしい佳曲です。



しおつ あきお 塩津 哲生

1945 喜多流職分塩津清人の長男 熊本市出身。
1950 「桜川」の子方で初舞台。
1957 「経政」にて初シテ。
1959 十五世喜多流宗家故喜多実師のもとへ内弟子修行のため上京。
1971 「道成寺」を抜き、独立。
1986 日本能楽学会会員、重要無形文化財総合指定。
1990 今上天皇即位の礼で石橋子獅子舞の勤め。
1996 (平成六年)より流儀の若手育成を一手に担い今日に至る。
2006 芸術環境文研科学大臣賞受賞。
2007 親世寿夫大記念能楽賞受賞。
2008 塩津能の會主宰。

札幌・東京・福岡・熊本・大牟田・竹田各地に哲門会主宰。



しおつ けいすけ 塩津 圭介

1984 喜多流能楽師塩津哲生の長男として東京に生れる。
1987 喜多流例會能にて「初子方隅田川」を勤める。
1996 千方の卒業試験でもまれる鳥帽子折を勤める。
1997 大分県竹田市塩津清人記念能舞台落成能にて初シテ「田村」を勤める。
2004 若者の、若者による、若者のための能、若者能をたらあげ、以後毎年公演。
2008 東京学芸大学教育学部卒業。
2009 APU立命館アジア太平洋大学非常勤講師に就任。
2011 喜多流青年能にて能楽師の登竜門「狸々乱」を抜き、道成寺を抜き、独立。